# 河内長野市埋蔵文化財調査報告書XXW

烏帽子形城跡 三日市北遺跡・三日市宿跡 観心寺遺跡

2009年3月

河内長野市教育委員会

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に 代表される和歌山や奈良へ向かう街道の要衝として発展してきた街です。この ため、市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市も、大阪市内への通勤圏に位置しているため、住宅都市として発達してきました。この住宅開発がもたらした文化財や自然に対する影響は大きなものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は、開発と直接的に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、現在の、更には未来の市民へと伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市に於いては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は、発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達の残したメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めて頂くと共に、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用して頂ければ幸いです。

これらの発掘調査に協力して頂ました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に、末尾ながら謝意を表すものです。

平成21年3月

河内長野市教育委員会教育長 福 田 弘 行

- 1. 本報告書は、平成19年度・平成20年度文部科学省の国庫補助事業として、河内長野市教育委員会が実施した烏帽子形城跡(EBS07-2・EBS08-1)、三日市北遺跡・三日市宿跡(MIN07-4)、観心寺遺跡(KST07-1・07-2)の発掘調査報告書である。
- 2. 発掘調査は、河内長野市教育委員会教育部社会教育課太田宏明・同課嘱託職員小林和 美を担当者として実施した。
- 3. 本書の編集・執筆は太田・小林が行なった。
- 4. 発掘調査及び内業整理については、下記の方々の参加・協力を得た。(敬称略) 池田和江・大西美智子・津留その子・平松由紀・牟田口京子・山崎和子
- 5. 写真撮影は、遺構については小林、遺物においては太田が行った。
- 6. 発掘調査については下記の方々の協力を得た。(敬称略) 粟田薫・中井均・藤田徹也・堀内和明・観心寺・増田設計室
- 7. 本調査の記録として、写真・実測図及び、カラースライド等を作成した。また出土遺物については、市教育委員会で保管している。広く一般の方々に活用されることを望むものである。

#### 月. 例

- 1. 本報告書に記載されている標高は、TPを基準としている。
- 2. 土色については、「新版標準土色帖」による。
- 3. 平面測量基準は、国家座標第VI系による5mメッシュを基準に実施したものである。
- 4. 図中の北は、磁北である。
- 5. 本書の遺構名は、下記の略記号を用いた。

SB…掘立柱建物 SC…炉

SD…溝・暗渠 SE…井戸

SF…道路

SK…土坑 SL…甕埋納遺構 SN…桶埋納遺構

S〇…土釜埋納遺構(土公供遺構) SP…遺物出土ピット

S T…慕

SU…集石・石敷遺構

SW…石垣・石組・石列

SX…落ち込み・不明

NR…自然流路 NV…谷状地形

- 6. 遺構実測図の縮尺は 1/50・1/60 である。
- 7. 遺物実測図の縮尺は、土器 1/4・漆器 1/4・石器 2/3・金属製品 1/3・銅銭原寸を基準 としているが、遺物の状況により変更している場合がある。
- 8. 遺物名は、土師質土器を土師質、瓦質土器を瓦質、須恵質土器を須恵質と略称し、器 種名を付した。
- 9. 遺物の断面は、土師器・土師質土器・漆器・石製品が白抜き、須恵器・瓦器・瓦質土 器・須恵質土器・陶磁器が黒塗り、瓦・木製品・金属製品が斜線である。
- 10. 軒丸瓦瓦当部の巴文の巻きは、巴頭から尾の方向への向きで示す。
- 11. 遺物番号と写真図版の番号は一致する。

# 目 次

序文				
例言				
凡例				
目次				
挿図目	次			
表目次	:			
図版目	次			
第1章	調査	その状況		1
第2章	調査	その結果		7
第	51節	烏帽子形城跡	<b>な(EBS07−2)</b> ····································	7
	1	位置と環境		7
	2	遺跡の概要		10
	3	調査に至る総	圣緯と目的	13
	4	調査の方法と	:層序······	13
	5	調査の結果		15
	6	遺物		15
第	52節	烏帽子形城路	↑ (EBS08-1) ·····	16
	1	調査に至る総	圣緯と目的	16
	2	調査の方法と	· 層序 ······	16
	3	調査の結果		17
	4	遺物		20
	5	まとめ		21
第	33節	三日市北遺跡	弥・三日市宿跡(MⅠN07-4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	23
	1	概略		23
	2	調査の方法と	· 層序······	25
	3	調査の結果		25
	4	まとめ		25
第	94節	観心寺遺跡	(KST07-1 · 07-2) ······	26
	1	概略		26
	2	調査に至る総	圣緯と経過	27
	3	調査の結果		29

# 挿 図 目 次

第1図	河内長野市遺跡分布図(1/40,000)	4
第2図	EBS07-2調査区位置図 (1/2,500) ·······	7
第3図	烏帽子形城縄張り図(1/1,250)	8
第4図	烏帽子形城跡測量図(1/1,000)	11
第5図	EBS07-2調査区平面図・土層断面図 (1/50) ····································	13
第6図	EBS07-2出土遺物実測図 (1/4)	14
第7図	EBS08-1調査区位置図 (1/2,500) ·······	16
第8図	EBS08-1調査区第1面平面図 (1/50) ····································	17
第9図	EBS08-1調査区第2面平面図 (1/50) ·······	18
第10図	EBS08-1土層断面図 (1/50) ·······	19
第11図	EBS08-1出土遺物実測図 (1/4)	20
第12図	EBS07-2・08-1堀内障壁断面図 (1/50) ·······	22
第13図	MIN07-4調査区位置図 (1/2,500) ······	23
第14図	MIN07-4調査区平面図 (1/50) ····································	24
第15図	MIN07-4土層断面図 (1/50)	24
第16図	MIN07-4出土遺物実測図 (1/4)	25
第17図	KST07-1・07-2調査区位置図 (1/2,500) ·······	26
第18図	KST07-1:07-2調査区平面図 (1/60)	27
第19図	KST07-1出土遺物実測図 (1/4)	28
第20図	KST07-1出土遺物実測図 (1/4)	30
第21図	KST07-1出土遺物実測図 (1/4)	31
第22図	KST07-1出土遺物実測図 (1/4)	32
第23図	KST07-1出土遺物実測図 (1/4)	33
第24図	KST07-2出土遺物実測図 (1/4)	34
	表目次	
第1表	発掘届出件数月別一覧表	1
第2表	主な発掘・試掘調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第3表	河内長野市遺跡地名表	5
第4表	烏帽子形城跡関連年表	9
第5表	阜帽子形城跡登堀調杏一覧表	a

# 図 版 目 次

図版 1	EBS 07 - 2	調査前状況(西から)
		土層断面 (南から)
図版 2	EBS07-2	調査区全景(西から)
		瓦出土状況 (南から)
図版3	EBS 07 - 2	S X 1 ~ 3 (東から)
図版 4	EBS08-1	調査前状況(南から)
		土層断面 (南から)
図版5	EBS08-1	調査区全景(南から)
		調査区全景(西から)
図版 6	EBS08-1	S X 4 (西から)
図版7	EBS08-1	調査区全景(北から)
		瓦出土状況 (南から)
図版8	M I N 07 – 4	調査区全景 (北から)
		遺構検出状況(東から)
図版9	EBS 07 - 2	出土遺物
図版 10	EBS08-1	出土遺物
図版 11	KST07-1	出土遺物
図版 12	KST07-1	出土遺物
図版 13	KST07-1	出土遺物
図版 14	KST07-1	出土遺物
図版 15	KST07-1	出土遺物
図版 16	KST07-2	M I N 07 - 4 出土遺物

## 第1章 調査の状況

平成20年の文化財保護法93・94・96条による発掘届及び発掘通知の件数は、総数117件、そのうち発掘届105件、発掘通知12件、新規発見通知0件である。

今年の発掘届にみられる原因者の状況は例年並であったが、本調査まで至ることは少なかった。

第1表 発掘届出件数月別一覧表

(平成20年1~12月)

										( )	19420	1 -	14/1/
	平	成19年	度		平成20年度								2013 NO.
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
発掘届(93条)	1	12	4	12	5	7	11	17	9	8	3	16	105
発掘通知(94条)	1	1	1	2	1	1	1	3	1	0	0	0	12
発見届(96条)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発見通知(97条)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

#### 第2表 主な発掘・試掘調査一覧表

遺跡名	調査期間	原因者	申請面積(m²)	用途	種別	区分	備考
野 作 遺 跡 NSK07-1	H20.1.9	個人	134.12	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
試掘調査	H20.1.18	(株)ライト・オ ン	1580.72	分譲住宅	試掘		遺構・遺物なし
試掘調査	H20.1.28	個人	1164.42	個人住宅	試掘		遺構・遺物なし
膳所藩代官所跡 ZZH07-4	H20.2.18	個人	345.14	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
尾 崎 遺 跡 OSK07-1	H20.2.29	個人	183.20	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
観 心 寺 遺 跡 KST07-2	H20.3.3~ H20.3.12	河内長野市教育 委員会	100.00	範囲確認調査	発掘	国庫	本書掲載
烏帽子形城跡 EBS07-2	H20.3.4~ H20.3.7	河内長野市教育 委員会	10.00	学術調査	発掘	国庫	本書掲載
試掘調査	H20.3.7	ファミティホー ム(株)	2895.71	分譲住宅	試掘		遺構・遺物なし
試掘調査	H20.3.7	ファミティホー ム(株)	838.65	資材置場他	試掘		遺構・遺物なし
試掘調査	H20.3.10	(学)清教学園	4000.00	グランド他	試掘		遺構・遺物なし
試掘調査	H20.3.17 ————————————————————————————————————	河内長野市水道 事業	866.38	水道	試掘		遺構・遺物なし
高 野 街 道 KYR07-1	H20.3.17	個人	382.52	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
三日市宿跡・三 日 市 北 遺 跡 MIN07-4	H20.3.26 H20.3.27	個人	150.78	個人住宅	発掘	国庫	本書掲載
試掘調査	H20.3.27	瀬尾高圧工業 (株)三日市工場	18070.57	事務所	試掘		遺構・遺物なし
試掘調査	H20.4.2	日産ネットワー クホールディン グス(株)	93.83	事務所	試掘		遺構・遺物なし
高 向 遺 跡 TKO08-1	H20.4.8	個人	1905.26	店舗	発掘		遺構・遺物なし

接合								
UHEOS-1		H20.4.8	個人	447.68	共同住宅	発掘		遺構・遺物なし
小 窓 遺 断 H20424 (常)ショーコー 10027 分譲住宅 立会 造構・遺物なし 京多 可 遺 断 H205.1 個人 151.76 共同住宅 発揮 遠橋・遺物なし 日日市金 か 上 日 市北 道 断 H205.7 個人 392.52 個人住宅 発揮 遺標・遺物なし 正日市金		H20.4.8	個人	120.66	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
10   10   10   10   10   10   10   1	試掘調査	H20.4.14	(株)大松工建	10710.00	埋立農地造成	試掘		遺構・遺物なし
No. 10		H20.4.24		100.27	分譲住宅	立会		遺構・遺物なし
日市 北 遺 財 H20.5.7 個人 392.5.2 個人住宅		H20.5.1	個人	151.76	共同住宅	発掘		遺構・遺物なし
KYR08-1	日市北遺跡	H20.5.7	個人	392.52	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
ICEOS-1		H20.5.9	個人	496.33	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
上原北遺跡   H20.5.27 個人   195.96 個人住宅   発掘   遺構・遺物なし   2素物   2素か   2表   2表   2表   2表   2表   2表   2表   2		H20.5.12	(株)ユーロプラ ンニング	110.65	分譲住宅	発掘		遺構・遺物なし
H20.6.2		H20.5.22	個人	127.23	個人住宅	発掘	国庫	遺構・遺物なし
大田調査		H20.5.27	個人	195.96	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
SOO8-2   H20.810   ボレーション   103.09   が展出を 立会   通情・進物なし   100.82   100.	試掘調査	H20.6.5	クホールディン	1333.86	店舗・工場	試掘		遺構・遺物なし
三日 市 北 遺跡		H20.6.10		103.09	分譲住宅	立会		遺構・遺物なし
SCOO8-3   H20.7.10   ボレーション   H20.7.15   Justile		~	河内長野市	5000.00	道路	発掘		住居・ピット等を検出、弥生土
三日市北遺跡   H20.7.15   河内長野市   762.10   下水道   立会   遺構・遺物なし     遺構・遺物なし		H20.7.8		100.42	分譲住宅	立会		遺構・遺物なし
MINO8-3	試掘調査	H20.7.10	大矢船自治会	772.58	自治会館	試掘		遺構・遺物なし
No Soo Soo Soo Soo Soo Soo Soo Soo Soo		H20.7.15	河内長野市	762.10	下水道	立会		遺構・遺物なし
計据調査   H20.7.30   個人   724.90   分譲住宅   試掘   遺構・遺物なし   遺露   対し10.27		H20.7.16	個人	363.03	個人住宅	発掘	国庫	遺構・遺物なし
高野街道   H20.8.4   個人   94.65   個人住宅   発掘   遺構・遺物なし     高野街道   H20.8.4   個人   94.65   個人住宅   発掘   遺構・遺物なし     小塩遺跡   H20.8.11   (株)ジョーコーポレーション   100.96   分譲住宅   立会   遺構・遺物なし     試掘調査   H20.8.18	試掘調査	H20.7.17	河内長野市	680.00	道路	試掘		遺構・遺物なし
KYR08-2   H20.8.4   個人   94.65   個人住宅   発掘   遺構・遺物なし   遺構・遺物なし   遺構・遺物なし   遺構・遺物なし   小 塩 遺 跡   H20.8.11   (株)ジョーコー ポレーション   100.96   分譲住宅   立会   遺構・遺物なし   遺構・遺物なし   遺構・遺物なし   遺構・遺物なし   遺構・遺物なし   遺構・遺物なし   遺格・遺物なし   遺権・遺物なし   遺権・遺物なし   遺権・遺物なし   遺権・遺物なし   遺権・遺物なし   遺権・遺物なし   遺権・遺物なし   遺権・遺物なし   「次YR08-4   版	試掘調査	H20.7.30	個人	724.90	分譲住宅	試掘		遺構・遺物なし
KYR08-3		H20.8.4	個人	94.65	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
No.80   No.81   ボレーション   No.80   N	高 野 街 道 KYR08-3	H20.8.4	個人	94.65	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
計掘調査		H20.8.11		100.96	分譲住宅	立会		遺構・遺物なし
清 水 遺 跡 H20.8.20	試掘調査	~	河内長野市	3100.00	道路	試掘		遺構・遺物なし
高野街道 H20.8.27 (医)生登会 3870.64 病院 発掘 遺構・遺物なし 塚 遺 跡 H20.8.28 河内長野市 790.00 道路 発掘 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 計掘調査 H20.8.28 河内長野市 1200.00 道路 試掘 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 三日市遺跡 H20.10.31 個人 1896.44 共同住宅 発掘 国庫 中世の瓦器・土師質土器が出土 計堀調本 H20.9.8 (宗)真言宗御室 688.65 書院 計堀 遺構・遺物なし		H20.8.20	河内長野市	415.00	道路	発掘		遺構・遺物なし
塚 遺 か H20.8.28			(医)生登会	3870.64	病院	発掘		遺構・遺物なし
計量調査   H20.8.28	塚 遺 跡	~	河内長野市	790.00	道路	発掘		遺構・遺物なし
MIC08-1 旧20.9.1 旧八 1696.44 共同任宅 発掘 国庫 師質土器が出土 計場調本 H20.9.8 (宗)真言宗御室 688.65 幸陰 計場 遺構・遺物なし	試掘調査	~	河内長野市	1200.00	道路	試掘		遺構・遺物なし
		H20.9.1	個人	1896.44	共同住宅	発掘	国庫	
	試掘調査	H20.9.8		688.65	寺院	試掘		遺構・遺物なし

						·	,
塩 谷 遺 跡 SIO08-2	H20.9.8	個人	86.10	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
塩 谷 遺 跡 SIO08-3	H20.9.8	個人	88.40	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
塩 谷 遺 跡 SIO08-4	H20.9.8	個人	102.53	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
峰 山 城 跡 MYJ08-1	H20.9.10	大阪ガス(株) 導管事業部	1.50	ガス管埋設	立会		遺構・遺物なし
小 塩 遺 跡 OSO08-6	H20.9.11	個人	130.67	個人住宅	立会		遺構・遺物なし
高野街道、三日市遺跡、尾崎遺跡、庚申堂遺跡 KYR08-5	H20.9.17	河内長野市	38.65	下水道	立会		遺構・遺物なし
上 原 北 遺 跡 UHK08-2	H20.9.22	個人	1665.81	宅地造成	発掘		近世の土師皿が出土
小 塩 遺 跡 OSO08-7	H20.9.25	個人	237.24	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
長 池 窯 跡 群 NIK08-2	H20.9.25	個人	458.77	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
膳所藩代官所 跡・高野街道 ZZH08-1	H20.9.30	個人	443.58	個人住宅	発掘		遺構・遺物なし
膳所藩代官所跡 ZZH08-2	H20.10.20	個人	256.21	共同住宅	発掘		遺構・遺物なし
三日市北遺跡 MIN08-4	H20.11.17	個人	452.44	個人住宅	発掘	国庫	遺構・遺物なし
太 井 遺 跡 OOI08-1	H20.11.17	KDDI(株)	181.01	携帯電話基地 局	発掘		遺構・遺物なし
試掘調査	H20.11.18	(株)アクセスエ ステート	1101.25	分譲住宅	試掘		遺構・遺物なし
観 心 寺 遺 跡 KST08-1	H20.11.18	(宗)観心寺	8.00	浄化槽	発掘		遺構・遺物なし
試掘調査	H20.11.20	個人	1187.27	飲食店舗	試掘		遺構・遺物なし
烏帽子形城跡 EBS08-1	H20.12.8 ~ H20.12.19	河内長野市教育 委員会	15.00	学術調査	発掘	国庫	本書掲載
高 向 遺 跡 TKO08-2	H20.12.13	個人	388.96	個人住宅	発掘		中世の瓦質土器・ 土師質土器・須 恵質土器が出土
試掘調査	H20.12.16	個人	1027.37	共同住宅	試掘		遺構・遺物なし
小 塩 遺 跡 OSO08-8	H20.12.25	個人	119.78	分譲住宅	立会		遺構・遺物なし



第1図 河内長野市遺跡分布図 (1/40,000)

#5 H	I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	1					<del></del>	
番号	文化財名称	種類	時代	番号		文化財名称	種類	時 代
1 2	長 野 神 社 遺 跡 河 合 寺 遺 跡	社寺 社寺	室町以降平安以降	(75)	笹士	尾 塞	城館	中世
3	観心寺遺跡	社寺	平安以降	(76)	大三	沢 塞	城館	中世
4	大師山古墳	古墳	古墳(前期)	(78)	光	国 山 経 塚 滝 寺 遺 跡	経塚	平安以降
5	大師山南古墳	古墳?	古墳(後期)	(79)	猿	一	社寺	中世以降
6	大師山遺跡	集落·生産	弥生 (後期)・平安	80	+-	井淵神社遺跡	城館	中世
7	興 禅 寺 遺 跡	社寺	中世以降	81	川	上神社遺跡	社寺社寺	中世以降中世以降
8	烏帽子形八幡神社遺跡	社寺	室町以降	82	千	代田神社遺跡	社寺	中世以降
9	塚穴古墳	古墳・墳墓	古墳(後期)・近世	83	向	野遺跡	集落・生産	
10	長 池 窯 跡 群	生産	平安~近世	84	古古	野町遺跡	兼治· 生產 散布地	縄文·平安~近世 中世
11	小山田1号古墳	墳墓	奈良	85	上	原北遺跡	集落	中世
12	小山田2号古墳	増幕	奈良	86	大	日寺遺跡	社寺・古墳・墳墓	弥生~中世
13	延命寺遺跡	社寺	平安以降	87	高	向南遺跡	散布地	鎌倉
14	天野山金剛寺遺跡	社寺・墳墓	平安以降	88	小	塩遺跡	集落	縄文~奈良
15	日野観音寺遺跡	社寺・生産	平安~中世	89	加	塩遺跡	集落	古墳(後期)
16	地蔵寺遺跡	社寺	中世以降	90	尾	崎 遺 跡	集落	古墳~中世
(17)	岩 湧 寺 遺 跡	社寺	平安以降	91		ョウノマエ遺跡	城館?	中世
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)	92	仁	王 山 城 跡	城館	中世
19	高向遗跡	集落	旧石器~中世	93	9	コラ城跡	城館	中世
20	烏帽子形遺跡	城館・生産	中世~近世	94	岩	立 城 跡	城館	中世
21	喜多町遺跡	集落	縄文·古墳~中世	95	上	原近世瓦窯	生産	近世
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)	96	市	町 東 遺 跡	散布地	弥生・中世
23	末 広 窯 跡	生産	中世	97	上	田町窯跡	生産	近世
24	塩 谷 遺 跡	散布地	縄文~近世	98	尾	崎 北 遺 跡	集落	古墳~中世
25	流谷八幡神社	社寺	平安以降	99	西	之山町遺跡	散布地	中世
26	蟹井淵南遺跡	散布地	中世	100	野	間 里 遺 跡	集落	平安
27	蟹 井 淵 北 遺 跡	散布地	中世	101	鳴	尾 遺 跡	散布地	中世
28	天 見 駅 北 方 遺 跡	散布地	中世	102	上	田町遺跡	散布地	古墳・中世
29	手早口駅南遺跡	社寺	中世	103	上	原中遺跡	散布地	古墳·中世
30	岩瀬薬師寺遺跡	社寺	中世以降	104	小	野 塚 遺 跡	墳墓	中世
31	清水遺跡	散布地	中世	(105)	葛	城第17経塚	経塚	平安以降
32	伝「仲 哀廟 」 古 墳	古墳?		106	薬	師 堂 跡	社寺	中世以降
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世	107	野	作 遺 跡	生産	中世
(34)	滝 畑 埋 墓	墳墓	近世	108	寺	元 遺 跡	集落・社寺	奈良・中世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世	(109)	鳩	原 遺 跡	散布地	中世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世	110	法	師塚古墳跡	古墳	古墳
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世	111	+	上講山古墳跡	古墳	古墳
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世	112	西	浦遺跡	集落	古墳・中世・近世
(40)	滝尻弥勒堂跡 宮の下内墓	社寺	近世	113	地	福寺跡	社寺	近世
41	宮の下内墓宮 山 古 墳	墳墓 古墳	古墳	114	宮	の下遺跡	集落	平安~中世
42	宮山遺跡	集落	古墳 縄文·奈良	115	栄	町 遺 跡	散布地	弥生・古墳・中世
43	西代藩陣屋跡	散布地·城跡	飛鳥~奈良・江戸	(117)	錦太	井 遺 跡	散布地	中世
44	上原町墓地	墳墓	近世	118	錦	町北遺跡	散布地 集落	縄文・中世 弥生・中世・近世
45	惣 持 寺 跡	散布地·社寺	縄文・奈良・鎌倉	119	市	町西遺跡	集落	縄文 中世
46	栗山遺跡	祭祀	中世~近世	120	栄	町南遺跡	集落	中世
47	寺ヶ池遺跡	散布地	縄文	121	栄	町東遺跡	散布地	弥生・中世
48	上 原 遺 跡	散布地	旧石器~近世	122	楠	町 東 遺 跡	散布地	弥生
49	住吉神社遺跡	社寺	近世以降	123	+	の宮町南遺跡	散布地	弥生·奈良
50	高向神社遺跡	社寺	中世以降	124	汐	の宮町遺跡	散布地	中世
51	青が原神社遺跡	社寺	中世以降	125	神	ガ丘近世墓	墳墓	近世
52	膳所藩代官所跡	城館	江戸	126	増	福寺	 社寺	中世以降
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳	127	Ē	味 城 遺 跡	墳墓·城跡	中世·近世
54	菱 子 尻 遺 跡	散布地・社寺	縄文~近世	128	松	林 寺 遺 跡	社寺	近世以降
55	河合寺城跡	城館	中世	129	昭	栄 町 遺 跡	散布地	中世
56	三目市遺跡	集落・古墳他	旧石器~近世	*130	東	高 野 街 道	街道	平安以降
57	日の谷城跡	城館	中世	*131	西	高 野 街 道	街道	平安以降
58	高 木 遺 跡	散布地	縄文	*132	高	野 街 道	街道	平安以降
59	汐の山城跡	城館	中世	133	上	原東遺跡	散布地	弥生・中世・近世
60	峰山城跡	城館	中世	134	1-	藏寺東方遺跡	墳墓	鎌倉
61	稲荷山城跡	城館	中世	135	本	多町北遺跡	散布地	中世
62	国 見 城 跡	城館	中世	136	下	里 町 遺 跡	散布地	古墳・中世
63	旗藏城跡	城館	中世	137	-	かしあ台遺跡	散布地	近世
64	権現城跡	城館	中世	138	岩	瀬北遺跡	集落	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	中世以降	139	-	瀬近世墓地	墳墓	近世
(66)	葛城第15経塚	経塚	平安以降	140		栄町東遺跡	散布地・地跡	縄文・中世・近世
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世以降	141	E	日市北遺跡	集落	弥生~中世
00	庚 申 堂 遺 跡 石 仏 城 跡	社寺	近世以降	142	=	日市宿跡	宿駅に伴う街並	中世~近世
60	4.1 TA 30V. Wh.	城館	中世	143	上	田町宿跡	宿駅に伴う街並	中世~近世
69		4-2-65		144	滝	尻 遺 跡	散布地	縄文・古代・中世
70	佐 近 城 跡	城館	中世				#L-4-1-1	ut. Dr
70 71	佐 近 城 跡 旗 尾 城 跡	城館	中世	145	市	町 北 遺 跡	散布地	中世
70 71 72	佐 近 城 跡   旗 尾 城 跡   葛 城 第 1 6 経 塚	城館 経塚	中世 平安以降	145 146	市太	町 北 遺 跡 白 遺 跡	散布地	中世
70 71	佐 近 城 跡 旗 尾 城 跡	城館	中世	145	市太	町 北 遺 跡		

( )は地図範囲外 \*は街道につき地図上にはプロットせず

第3表 河内長野市遺跡地名表

-6-

## 第2章 調査の結果

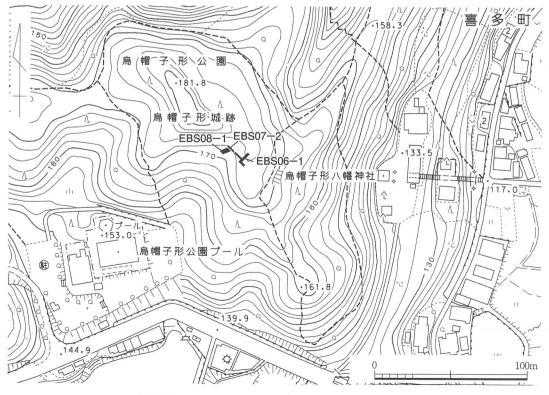
## 第1節 烏帽子形城跡 (EBS07-2)

### 1 位置と環境

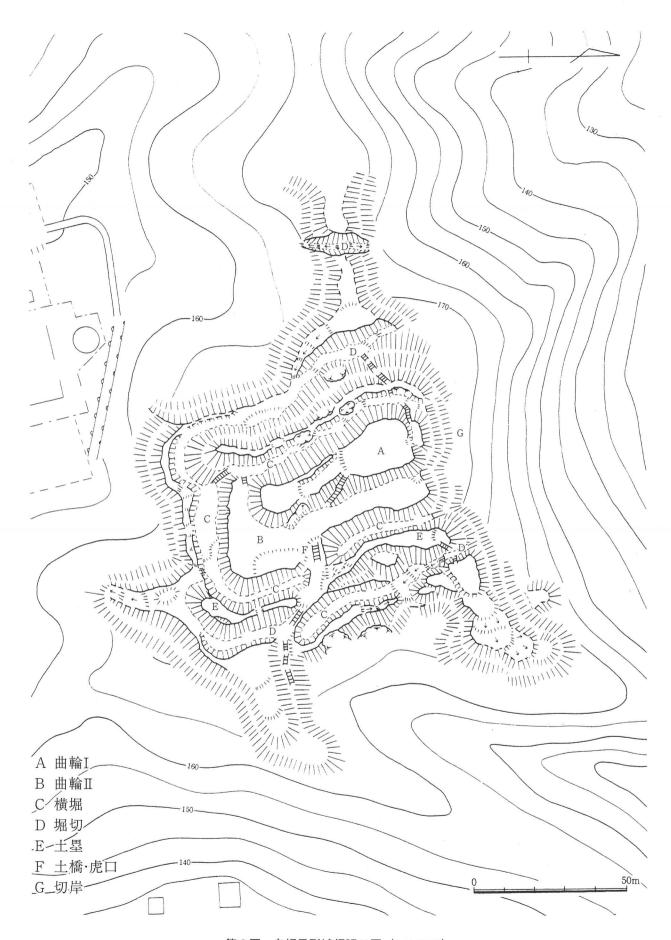
河内長野市の地形を概観すると、市の南部を金剛葛城山地が東西にのび、その山地から派生する丘陵と、天見川・石川・石見川によって形成された河岸段丘と、河川沿いのわずかな沖積地で構成されている。従って、市内の遺跡の多くは河岸段丘上に立地する。

烏帽子形城跡が立地する烏帽子形山は標高 182 mを測り、金剛葛城山地から北へ派生した丘陵の先端に位置し、南に広がる低地に突き出た様相を示す。さらに東側を天見川、西側を石川が流れ、烏帽子形山の北東麓で合流し、烏帽子形山は三方を河川によって囲まれていることから、地形的に要所であることが看取できる。交通面においても、山の東側を京都と高野山を結ぶ高野街道が南北に走り、西側では石川を挟んで和泉街道が走るなど交通の要所に位置し、烏帽子形山は地形条件とあわせて、中世城郭が立地する場所として最適であると容易に推察される。

周囲には北東方向に大日寺遺跡、石川の対岸に栄町東遺跡、栄町遺跡、錦町北遺跡、太白遺跡が位置する。東側の高野街道沿いには喜多町遺跡が位置し、街道を約500m南下すると近世の宿場町として栄えた三日市宿跡に至る。



第2図 EBS07-2調査区位置図 (1/2,500)



第3図 烏帽子形城縄張り図 (1/1,250)

年 月 日	西暦	事 項	文 献
寿永2年 11月28日	1183	播磨国室山合戦で平家に敗れた源行家は、和泉を経て河内に逃れ 長野城に楯籠った。	『平家物語』·『参考源平盛衰記』巻三十三
寿永3年 1月17日	1184	木曾義仲と対立する源行家・石川義兼は、長野城に籠城の後、紀 伊国に没落した。	『平家物語』
文治元年11月	1185	源頼朝と対立を深める源義憲·行家兄弟は、河内の長野城に楯籠った。	『参考源平盛衰記』巻四十六
応安6年 8月10日	1373	河内の天野に陣取る南軍は、北軍の陣(烏帽子形山か)に夜討ち をしかけて敗退した。	『花営三代記』
文正元年 9月4日·5日	1466	畠山義就(子の義豊から総州家)、金胎寺着陣後、畠山政長(尾 州家)方の押子形成(烏帽子形城)を攻め落とした。	『経覚私要鈔』
文明12年 2月16日	1480	石川八郎左衛門尉が烏帽子形八幡神社社殿を建立した。	烏帽子形八幡神社社殿 棟札
大永4年	1524	畠山稙長(尾州家)と河内守護職をめぐって争う畠山義英(絵州家) は、日野および天野仁王山に城郭を構えて対陣したが、金胎寺城 から烏帽子形城に陣を進めた畠山稙長軍に追われて高野山に没落 した。	
永禄5年	1562	畠山高政(尾州家)が飯盛山城の三好長慶を攻めるが破れ、烏帽 子形城にこもる。さらに三好氏に攻められ堺へ逃れる。	『続応仁後記』
永禄5年5月	1562	畠山高政(尾州家)が烏帽子形を退き、堺へ敗退した。これを追撃する三好勢は畠山方の紀州勢と交戦し攻め落とした。	『足利季世記』第六・『続応仁 後記』
永禄8年か?	1565	畠山氏(政慶か)の烏帽子形入城に際し、金剛寺は人足等の供出 を命じられた。	『金剛寺文書』
永禄10年9月15日	1567	根来寺の僧兵が烏帽子形城を攻撃したが、落城には至らなかった。	『多聞院日記』
元亀元年 10月22日	1570	烏帽子形城の畠山高政(尾州家)に対し、三好三人衆が攻撃を仕掛けて180人余を討ち取る。	『言継卿記』
元亀2年 6月15日	1571	烏帽子形城を守備する畠山昭高(尾州家)配下の宮崎氏が三好氏と結んだ守護代遊佐河内守家臣の草部氏に攻められ敗退するが、 夜中にこれを奪回した。	『足利季世記』第八・『織田軍 記』
(元亀年間か?) 11月19日		烏帽子形城主の草部房綱は金剛寺に対し、兵糧および築城資材の 供出を命じた。	『金剛寺文書』
天正4年か? 3月11日	1576	『金剛寺文書』	
天正9年 2月13日	1581	イエズス会からの巡察使ヴァリアーノが伊智地文太夫の案内で烏帽子形城へ来訪する。	ヴァリアーノ『日本要録』
天正9年	1581	烏帽子形城とその領地は3人の大名によって統治され、そのうち2人はキリシタン大名として300人のキリシタンを領民にもち、城下には仮聖堂が建立された。	フロイス『日本史』
天正12年8月4日	1584	岸和田城主の中村孫平次が、羽柴秀吉の命により烏帽子形城を普 請した。	『字野主水日記』
天正15年	1587	豊臣秀吉の禁教政策によって、キリシタン大名であった烏帽子形 城主は没落した。	ヴァリアーノ『日本巡察記』

## 第4表 烏帽子形城跡関連年表

調査年度	調査区	位地	主な内容
昭和63年度	第1~3トレンチ	曲輪Ⅰ	7間×2間?の礎石建物を検出。柱穴には若干の焼土と炭が混じる。室 町時代末から江戸時代初頭の瓦が出土。
昭和63年度	第4トレンチ	曲輪I	4間×1間の礎石建物を検出。
昭和63年度	第5・6トレンチ	曲輪Ⅱ	2~3面の遺構面があり、地山面を大きく改変している。地山直上に焼土と炭あり。
平成17年度	第1調査区	堀切	本来の断面形状は現地表とあまり変わらず。
平成17年度	第2調査区	横堀	瓦を大量に含んだ包含層の上に土塁を構築。土塁構築後の横堀の断面はV字形。
平成18年度	第1調査区	土塁	土塁は地山の削り出しと盛土の両方によって構築。土塁上面で焼土坑 を検出。
平成18年度	第2調査区	土塁	遺構・遺物なし。

第5表 烏帽子形城跡発掘調査一覧表

#### 2 遺跡の概要

烏帽子形城跡は烏帽子形山の山頂部に位置し、城域の規模は、東西 200m、南北 150 m の規模を有する。これまでに発掘調査や城館分布調査など、多方面から検討が行われ、一定の成果が蓄積されている。これらの成果については、第4・5表にまとめた。

#### (1) 文献史料

第4表は主に文献に登場する烏帽子形城の記載をまとめたものである。築城主体や築城契機は不明であるが、12世紀以降、城としての機能を失う17世紀初頭まで、たびたび文献に登場する。すでに指摘されているとおり、記載内容にはまとまりがあり、およそ3つの記載内容に分けることができる。まず12世紀代の源平合戦にともなう記載であり、史料中の長野城が烏帽子形城にあたると考えられている。次に、15世紀後半から16世紀後半にかけての畠山合戦によるものである。畠山氏は総州家と尾州家に分裂して河内支配をめぐり、河内・大和・紀伊の三国で抗争を繰り返す。この抗争の舞台として、烏帽子形城が登場する。おそらく紀伊と河内を結ぶ高野街道に面したその立地から、合戦時の拠点として利用されていたと思われる。

そして16世紀後半のキリシタンに関する記載である。天正9年の記載にある3人の城主のうちの1人、伊地智文大夫は熱心なキリシタンであった。秀吉の禁教政策以後、城下にいたキリシタンの消息は不明であるが、市域南部の流谷地区には、キリシタンの洗礼名が刻まれた十三仏が残っており、烏帽子形城にいたキリシタンが隠れキリシタンとなっていった可能性も考えられる。

#### (2) 発掘調査

第5表は山頂部で行われたこれまでの発掘調査歴をまとめたものである。昭和63年度に実施された山頂部の調査では、主郭と考えられる場所(曲輪I)から礎石建物が検出された。この建物は桁行に対して梁行が極端に短い建物であることから、多聞櫓的な建物と考えられている。平成18年度以降の横堀や土塁の調査では、築造方法や改修の痕跡が明らかになりつつある。改修については、天正12年(1584)に羽柴秀吉の命によって、岸和田城主中村一氏が烏帽子形城を改修した記録が残っている。その他、山裾部の調査では、城郭に関する遺構は検出されていない。

#### (3) 城館分布調査

平成  $10\cdot 11$  年度に市内の城館分布調査が行われ、烏帽子形城も改めて縄張り図が作成された(第 3 図)。その結果、基本形態は方形であることや、高低差のある堀・土塁を効果的に配置し、曲輪 I と曲輪 I を一体的に扱って防御していること、特に尾根続きとなる西・東・南側は空堀を二重に巡らせ、防御ラインを強固なものとしていることなどが、烏



第4図 鳥帽子形城跡測量図 (1/1,000)

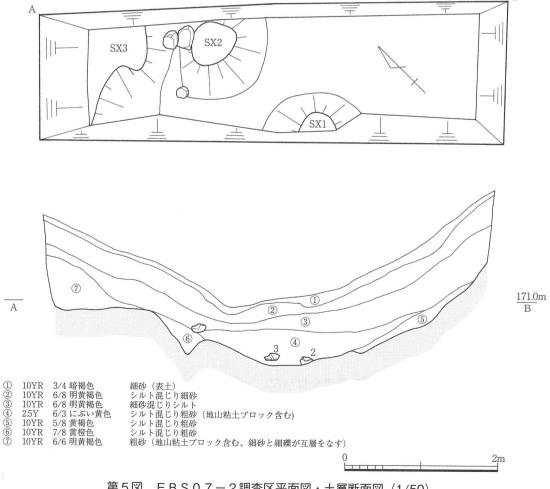
帽子形城の構造の特徴として再確認された。

#### 調査に至る経緯と目的 3

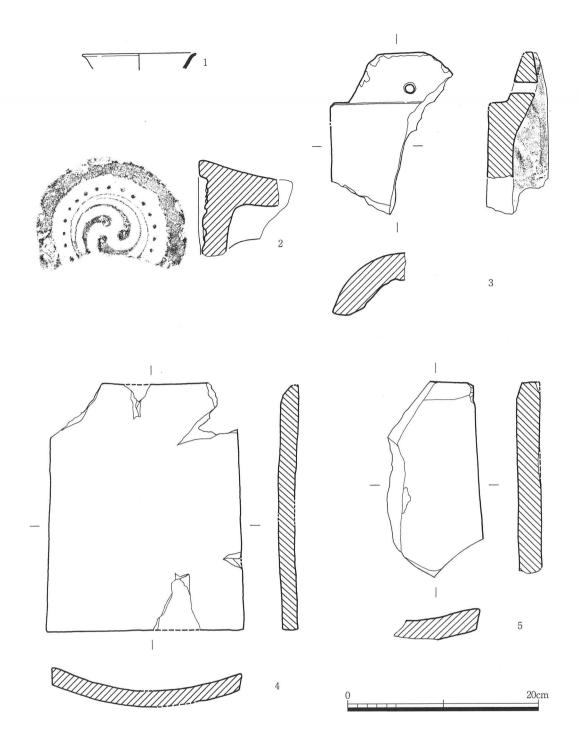
本調査は、市指定史跡である烏帽子形城跡について、今後の保存・活用のための基礎 的な資料を得るために行った。曲輪 I 及び曲輪 I については、すでに調査が行われ、一定 の成果を得ているが、土塁や横堀については調査が行われていなかった。平成17年度より、 これらの本来の形状や上面における遺構の有無を確認するため、曲輪Ⅱをめぐる土塁・横 堀の調査を行った(EBS 05-4)。平成18年度の調査は、南東隅角部において土塁上 面から横堀肩部にかけて調査を行った(EBS06-1)。今回の調査では、さらに横堀肩 部から堀底の遺構検出を目的として、平成18年度の調査区を北西方向に拡張する形で1.5 ×6mの調査区を設定した。

#### 調査の方法と層序 4

調査は平成20年3月4日に開始し、平成20年3月7日に終了した。調査では、まず 調査区周辺の落ち葉の除去と除草を行い、現状での写真撮影と測量を行った後、人力によ



第5図 EBS07-2調査区平面図・土層断面図 (1/50)



第6図 EBS07-2出土遺物実測図(1/4)

り遺構面まで掘り下げ、遺構の検出を行った。一方で、調査区壁で土層の観察を行い、記録の作成を行った。遺構については堀底からこぶ状の高まりを検出し、遺物は磁器と瓦が出土した。

基本層序は、現地表から表土(①層・層厚 10 cm)、堆積土層(②~④層・層厚 80 cm)、地山である。

#### 5 調査の結果(第5図、図版1~3)

今回の調査地は、曲輪 II をめぐる横堀の南東隅屈曲部にあたり、横堀の外側には土塁が取り付いている。調査前の状況として、現地表から曲輪 II までの比高は約5 m、土塁までの比高は約5 mを測り、現地表での堀底幅は2 mであった。

調査の結果、現地表から 0.9 mの深さで地山面(堀底)を検出した。地山面は、土塁から急勾配で直線的に堀底に向かい、横堀の断面は V 字形を呈していた。この V 字形の堀底に地山を掘り残して作られたこぶ状の高まりを 3 ヶ所で検出した。

#### [SX 1]

上面に片足がのる程度の平坦面を残した円錐形を呈し、西半分は調査区外へ続く。堀底部で南北約1.2 m、上面と堀底までの比高は約0.5 mである。

#### ISX 21

上面に平坦部はなく、全体的にいびつな不定形の高まりである。東側裾部は調査区外へ続く。堀底部で南北約 1.1m、東西約 1 m、上面と堀底までの比高は約 0.5m である。北側裾部では人頭大の自然石が出土し、南側裾部では堀底からやや浮いた状態で丸瓦(3)が出土した。

#### [SX 3]

曲輪Ⅱ側の斜面から派生したの高まりである。南西に傾いた平坦面をもち、西側とSX 2に向かって急傾斜で堀底へと向かう。上面と堀底までの比高は約1mである。

#### 6 遺物(第6図、図版9)

遺物は磁器(1)と瓦(2~5)が出土した。1は白磁皿である。2は右巻き三巴文の軒丸瓦である。巴頭部は丸く、巴尾は長く、次の巴の胴部近くに達するが、隣の尾には接しない。巴文と連珠の間に圏線を描く。珠文は小粒で、復元珠数は24個を数える。焼成はあまく、摩滅が著しい。3は丸瓦である。玉縁部に釘穴を穿ち、凸面にタテナデ、凹面に布目痕が残る。胎土に1.5cm大の白色砂粒を含む。4・5は平瓦である。4は焼成があまく、摩滅が著しい。5は凹面・凸面ともにナデを施す。

(小林)

#### 参考文献

- ·河内長野市教育委員会(2001)『河内長野市城館分布調査報告書』
- ·河内長野市教育委員会(2008)『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XXVII』
- ・太田宏明(2008)「烏帽子形城跡について」『南河内における中世城館の調査』大阪府教 育委員会

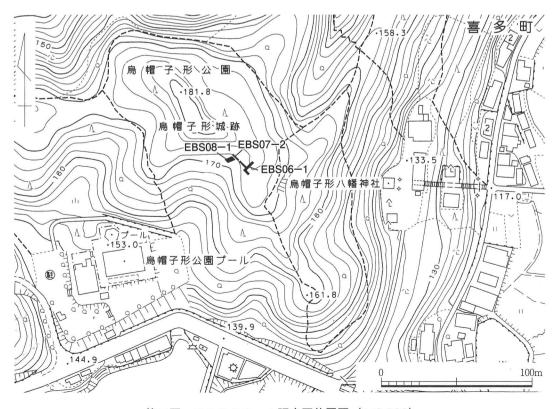
## 第2節 烏帽子形城跡 (EBS08-1)

## 1 調査に至る経緯と目的

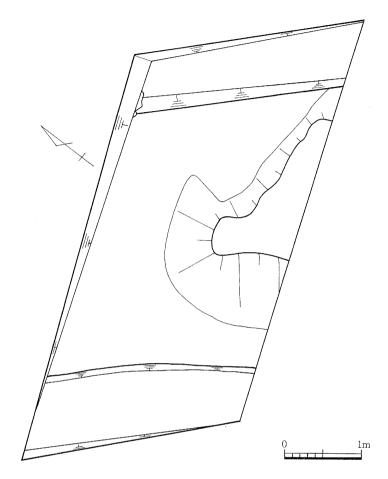
本調査は、市指定史跡である烏帽子形城跡について、今後の保存・活用のための基礎的な資料を得るために行った。曲輪 I 及び曲輪 II については、すでに調査が行われ、一定の成果を得ているが、土塁や横堀については調査が行われていなかった。平成 17 年度より、これらの本来の形状や上面における遺構の有無を確認するため、曲輪 II をめぐる土塁・横堀の調査を行った(EBS 05-4、06-1)。平成 19 年度の調査では、南東隅角部の堀底からこぶ状の高まりの遺構が検出された(EBS 07-2)。今回の調査では、この遺構の広がりや性格を把握することを目的として、平成 19 年度の調査区を南西方向に拡張する形で  $3\times6$  mの調査区を設定した。

## 2 調査の方法と層序

調査は平成20年12月8日に開始し、平成20年12月19日に終了した。調査では、まず調査区周辺の落ち葉の除去と除草を行い、現状での写真撮影と測量を行った後、人力により8層上面まで掘り下げ、遺構の検出を行った(第1面)。さらに地山面を確認するため、東側から時計回りにコの字形に掘り下げたが、深度が非常に深くなったため、作業の安全確保上、東側で地山面を確認するにとどめ、南側・西側では地山面の確認には至らなかっ



第7回 EBS08-1調査区位置図(1/2,500)



第8図 EBS08-1調査区第1面平面図(1/50)

## た(第2面)。

一方で、調査区壁で土層の観察を行い、記録の作成を行った。遺構については堀底から堀内障壁と考えられる遺構を検出し、遺物は瓦が出土した。

基本層序は現地表から表土 (①層・層厚 15 cm)、堆積土層 (②・③・⑧・⑨・③層・ 層厚 2 m)、地山である。

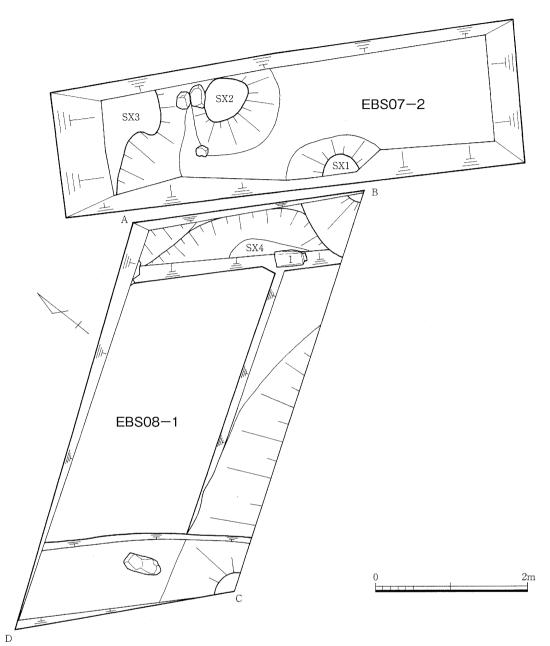
## 3 調査の結果 (第8~10図、図版4~7)

今回の調査地は、曲輪 II をめぐる横堀の南東隅の屈曲部にあたり、横堀の外側には土塁が取り付いている。調査前の状況として、現地表から曲輪 II までの比高は約5 m、土塁までの比高は約5 mを測り、現地表での堀底幅は 2.5 mであった。

#### ·第1面(第8図)

調査区の南側で約15cmほどの高まりを検出した。この高まりが非常に硬くしまっていたため、高まりの上面で精査を行ったが、輪郭もはっきりせず、遺構ではない可能性が高い。

#### ・第2面(第9図)

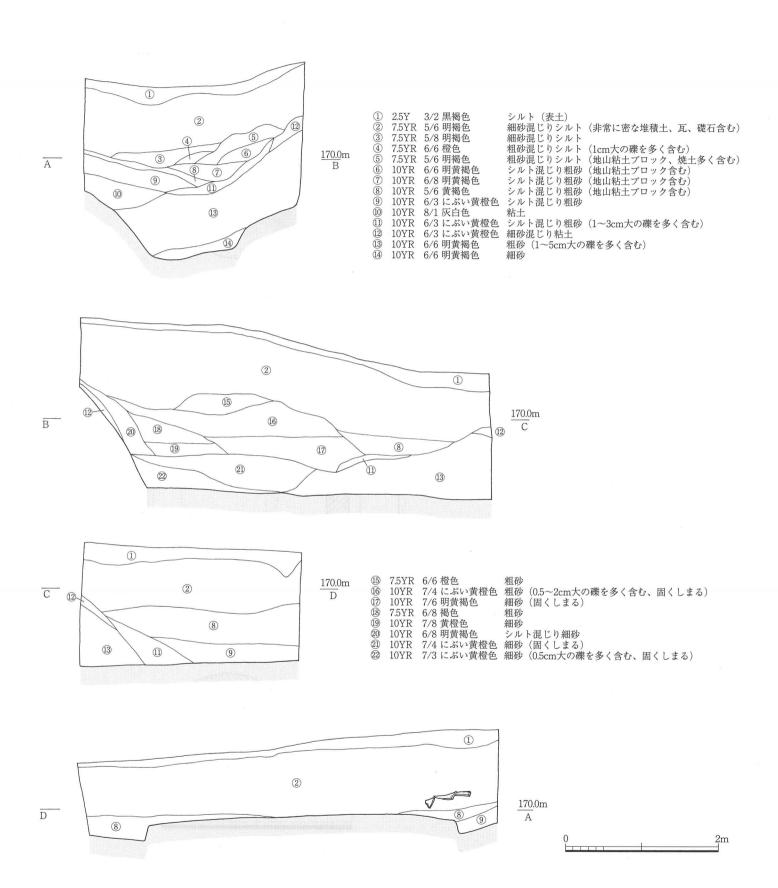


第9回 EBS08-1調査区第2面平面図(1/50)

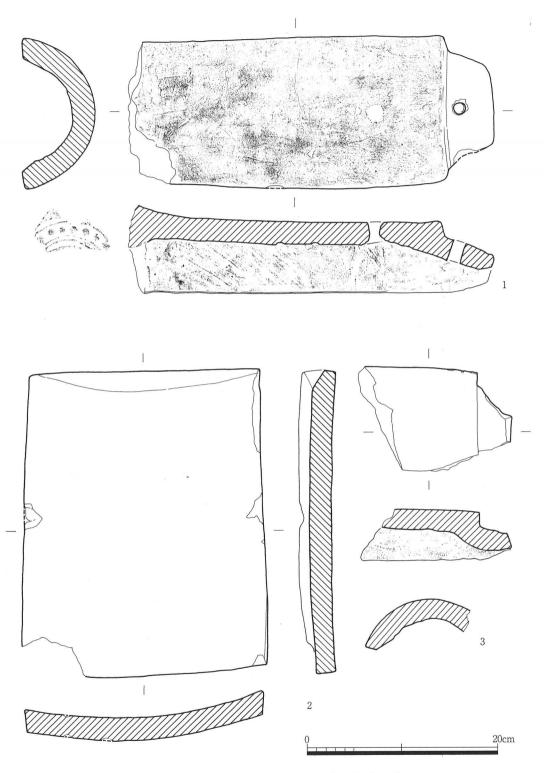
調査区の東側で、昨年度の調査で検出した SX 1 と SX 3 の続きと落ち込みを検出した。 南側では横堀の斜面を検出した。

### [SX 4]

東壁部において昨年度検出した SX 1 と SX 3 の裾部がつながり、急傾斜で地山へと向かう半円のすり鉢状を呈する落ち込みを検出した。つながった裾部から 0.9 m下、現地表から 2.3 m下で地山面に達する。地山面上で軒丸瓦(1)が出土した。



第10図 EBS08-1土層断面図 (1/50)



第 11 図 EBS 08-1 出土遺物実測図 (1/4)

### 4 遺物 (第11 図、図版10)

SX 4から軒丸瓦(1)、人力掘削中に、曲輪Ⅱ側から流れ込んだ状態で、瓦(2・3)と人頭大の自然石が出土した。

1は巴文軒丸瓦で、巴尾は長い。巴文と連珠の間に圏線を描く。珠文は小粒で密に施す。 丸瓦部凸面はタテナデを施し、玉縁部付近には縄タタキが残る。凹面にはコビキ A と布 目痕が見られ、中央部に吊り紐痕が残る。玉縁部と丸瓦上半部に釘穴を穿つ。 2 は平瓦で 凹面・凸面ともにナデを施す。 3 は丸瓦で、凸面にナデ、凹面に布目痕が残る。非常に硬 質の瓦で、二次焼成を受けた可能性がある。

#### 5 まとめ

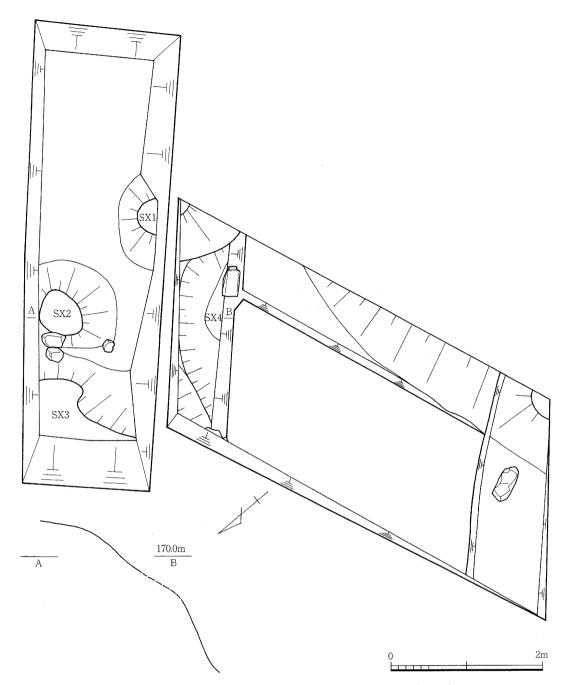
昨年度の調査とあわせて今回の調査では、横堀に十字形のトレンチを設定することによって、横堀断面の形状や堀底の状況を確認することができた。

横堀断面の形状については、曲輪 IIの東側をめぐる横堀を調査した平成 17 年度の調査において、土塁構築後の横堀の断面は V 字形を呈していたことが確認されている。今回の調査においても、平成 17 年度と同様に横堀の断面が V 字形であったことが確認できた。

新知見としては、堀底に高まり(SX  $1 \sim 3$ )や落ち込み(SX 4)を作り、起伏に富んだ堀底の様相が明らかとなった。SX 4に関しては、本来の地山の傾斜と合っていることから、堀底を傾斜に合わせて階段状に整形した可能性も考えられる。しかし、調査区南側土層断面を観察する限り、階段状の埋土の堆積が認められず、現地表にも痕跡が認められないことから、落ち込みは階段状の整形ではなく、落とし穴のような土坑であった可能性が考えられる。なお、第1面で検出した高まりが、ある程度下層の状況を反映している可能性があり、示唆的である。SX  $1 \sim 3$  に関しては、いずれも  $0.5 \sim 1$  m程の高まりであるが、いびつな不定形であるため足の置き場がない上に、表面が粘土質であるため滑りやすく、意外と上り下りに体力を消耗した。SX 4 についても同様に、一度底に下りてしまうと、容易には底から抜け出せなかったことを調査担当者の実感として記しておく。

今回の調査地は、横堀の屈曲部に位置し、横堀の中でも城の構造上、重要な位置にある。曲輪  $\Pi$  をめぐる形で横堀が掘削されているが、その幅は屈曲の度に広くなったり狭くなったり変化している。曲輪  $\Pi$  南側の横堀は、現地表において幅が約4mあるが、南側から直角に東側へ曲がると、急に幅は約2mと狭くなる。また屈曲部には土塁も築かれており、幅が狭くなった堀底から頭上を見上げると、左右から曲輪  $\Pi$  と土塁が覆いかぶさってくるような気配がある。

このような地点に築かれた堀底内の遺構は、それだけで敵を退散させるものではないが、敵の足を一時的に止めるには十分であり、敵が足を止めた時には、頭上に迫っている 曲輪  $\Pi$ や土塁から容易に攻撃できたと思われる。敵の足止めに有効となれば、SX  $1\sim 4$  は相互補完的に堀内障壁としての機能を果たしていたと考えられる。



第12図 EBS07-2・08-1堀内障壁断面図(1/50)

従来、縄張り調査から、城の南東隅は緩斜面となる弱点を補うために、土塁や横堀・ 堀切がめぐらされ、強固な作りになっていたことが指摘されていたが、今回の調査におい て、その防御性がさらに高められていたことが明らかとなった。

(小林)

#### 参考文献

・中井均(2001)「烏帽子形城跡の構造について」『河内長野市城館分布調査』河内長野市 教育委員会

## 第3節 三日市北遺跡・三日市宿跡 (MINO7-4)

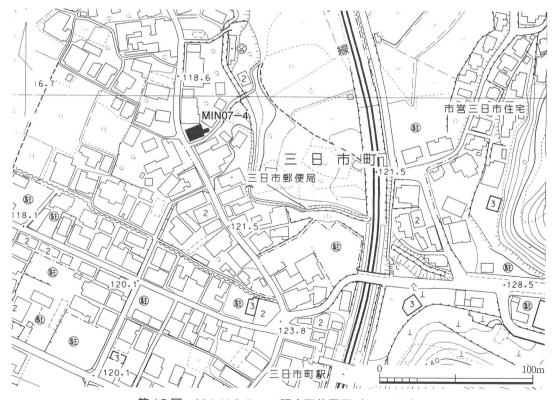
#### 1 概略

三日市北遺跡は、天見川と石見川の合流地点の北東、河岸段丘上に立地する。東側には 金剛山地から派生した丘陵が迫っている。

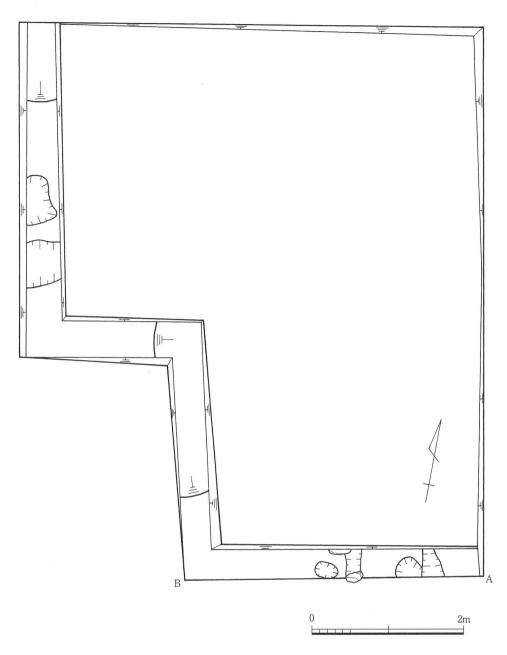
当遺跡に南接して石見川の対岸に、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である三日市遺跡が広がる。東側の丘陵上には、弥生時代後期の集落遺跡である大師山遺跡が広がり、大師山遺跡の西端には、古墳時代前期の前方後円墳である大師山古墳が立地する。当遺跡の中央部には南北に高野街道が走り、三日市町駅周辺には宿場町として三日市宿が形成されていた。

当遺跡は三日市町駅前再開発事業に伴う調査によって新たに発見され、弥生時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明した。弥生時代の遺構としては、竪穴住居 31 棟、掘立柱建物 4 棟や環濠と考えられる溝が検出され、弥生時代中期後半を中心とする環濠集落の存在が明らかとなった。また同一面で検出された近世の建物や石組みの暗渠などは、旧三日市宿跡と考えられ、現存する建物とあわせて当時の宿場町の様子を彷彿とさせる。

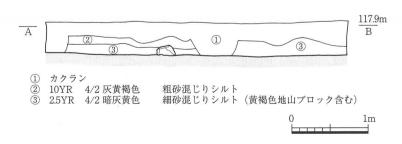
本調査は、個人住宅建設に先立ち実施した。調査は建物の基礎工事を受ける範囲、約40 ㎡を対象とした。



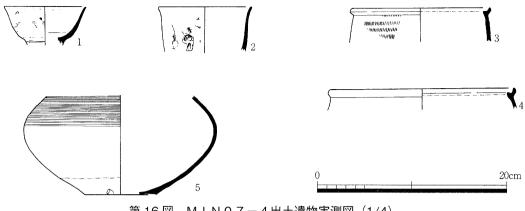
第13図 MIN07-4調査区位置図 (1/2,500)



第 14 図 MIN 0 7 - 4 調査区平面図 (1/50)



第15図 MIN07-4土層断面図 (1/50)



第16図 MIN07-4出土遺物実測図(1/4)

## 調査の方法と層序

住宅建設予定地で行った事前の予備調査では GL - 20 cmで包含層と遺物が発見された ため、調査区は住宅建設予定地で長辺7m×短辺6mのトレンチを設定した。調査は平成 20年3月25日に開始し、3月26日に終了した。調査はGL-20cmまで機械掘削を行い、 さらに基礎工事が及ぶ範囲のみ建物の基礎深度(GL - 40 cm)まで人力掘削を行い、そ の水準で精査を行った。その結果、調査区西側と南側において土坑や溝を検出したが、掘 削限界深度に達していたため、遺構の掘削は行わなかった。

基本層序は、現地表から盛土 (①層・層厚 20 cm)、包含層 (②・3)層・層厚 20 cm)、地 山である。

#### 調査の結果 (第14~16 図、図版8・16)

遺物包含層から磁器小坏(1・2)、陶器(3~5)が出土した。

1は染付の小坏で、口縁部の外面に圏線を描き、体部には鳥と草花文を描く。高台際と 高台に圏線を描く。口縁部の内面には太い圏線を描き、底部付近にも圏線を描く。2は染 付の小坏で、ほぼ直立する口縁部はやや外反する。体部には人物を描く。3・4 は行平鍋、 5は土瓶である。

#### まとめ 4

調査地は高野街道に面し、18世紀後半に建築された八木家住宅(国登録文化財)に隣 接する。今回の調査では、既存の建物の影響を受けていない部分においてのみ遺構を検出 した。掘削していないため、性格は不明であるが、出土した遺物やその立地から三日市宿 に伴う遺構と考えられる。

(小林)

## 第4節 観心寺遺跡 (KST 07-1·07-2)

#### 1 概略

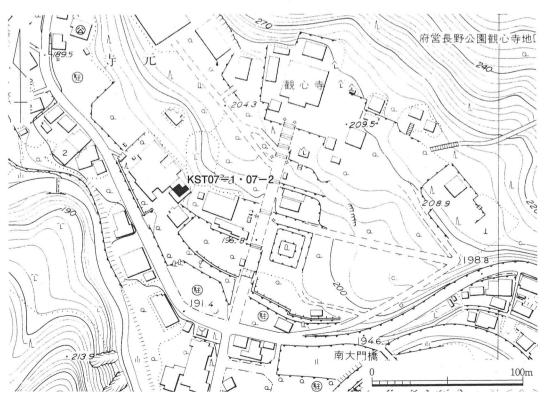
観心寺遺跡は、石川の支流である石見川北岸の丘陵南斜面に位置する。石見川沿いには、 通称大沢越えといわれる奈良県五條市に向かう道が東西にはしっており、これは市内を南 北に縦断し、京都、堺を河内を経て高野山と結ぶ高野街道にも接続している。

遺跡の大半を占める観心寺は山号が、檜尾山であり、創建は役小角によるものと伝えられているが、天長2年(825)~天長4年(827)に空海の弟子実恵と、その弟子真紹によって再興されたと伝えられている。主要伽藍を中心として周囲には、中院、槇本院などの子院が現在でも残っており、全盛期には、50近い子院が存在したと言われている。

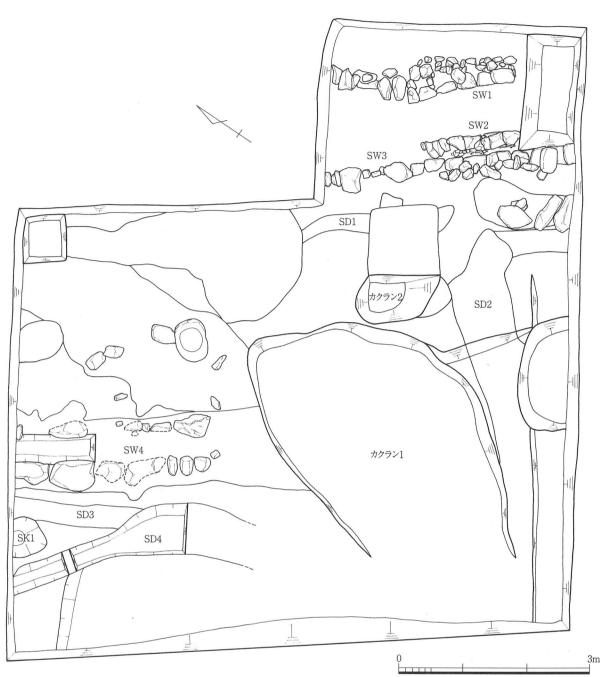
観心寺は、金剛寺に続き南北朝時代の正平 14 年・延文 4 年 (1359) に南朝の後村上天皇の行在所となった。

既往の発掘調査については、まず昭和54年から59年にかけて金堂の解体修理にともなって行われており、現金堂に先行する平安時代の前身建物が存在したことが確認され、平安時代から鎌倉時代にかけての瓦が出土した。平成元年には、ポンプ場の建設と送水管・電線管の埋設にともない、かつて子院があったとされる「奥谷坊」付近が調査され、石積井戸や窯が検出され、平安時代から鎌倉時代にかけての遺物が出土した。

観心寺遺跡周辺の発掘調査については、寺元遺跡から10世紀以降に形成された集落と



第17図 KSTO7-1・07-2調査区位置図 (1/2,500)

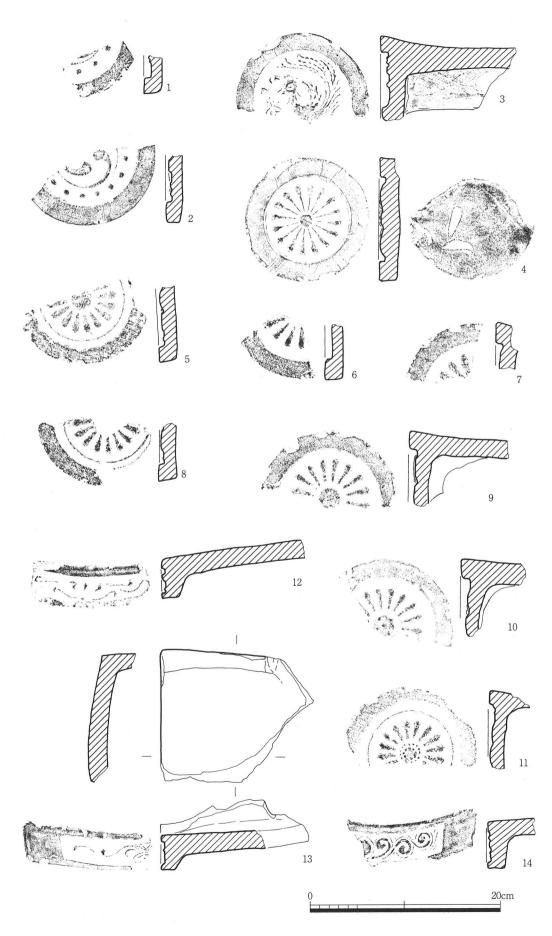


第18図 KST07-1・07-2調査区平面図 (1/60)

寺院の遺構が検出されている。集落については寺辺領である寺元の村落の一部であり、寺 院遺構については子院のひとつである真福院である可能性が高いと考えられる。

## 2 調査に至る経緯と経過

本次調査は、国史跡である観心寺境内において、庫裏の建替えにともない行ったものである。本庫裏の建築については、平成 17 年 11 月に宗教法人観心寺から史跡地内で庫裏の建替えを行いたいとの申し出があり、現状変更については平成 19 年 2 月 23 日付で許可がおり、平成 19 年 11 月 19 日~ 12 月 21 日にかけて発掘調査を実施した。



第 19 図 KSTO7-1 出土遺物実測図 (1/4)

本発掘調査については、作業ヤード確保の問題から、1次(KST97-1)と2次(KST97-2)にわけて行い、検出遺構については、すでに報告済である。今回は、出土した遺物について報告を行う。

(太田)

#### 3 調査の結果

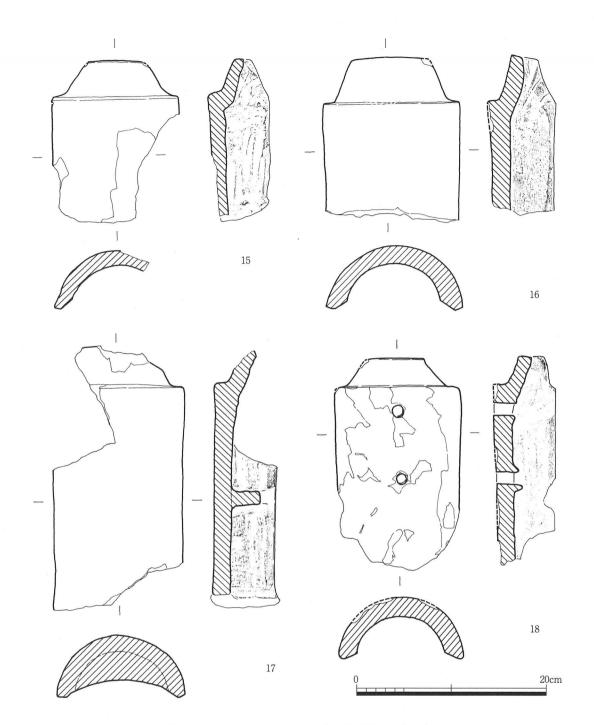
#### (1) 瓦(第19~22 図·図版11~14)

カクラン 1 から瓦( $1 \sim 21$ )、カクラン 2 から瓦( $22 \sim 24$ )が出土した。 $1 \cdot 2$  は巴文軒丸瓦である。1 は小粒の連珠をまばらに施す。2 は左巻き巴文で、巴頭部は上面が平坦でやや角張る。巴尾は細長く、次の巴の胴部近くに達するが、隣の尾には接しない。復元珠数は 16 個を数える。3 は軒丸瓦である。中央に左向きの鳳凰を配置し、余白部分には桐を施す。文様はいずれもシャープな作りである。丸瓦部凸面は丁寧なナデが施され、凸面にはコビキ A が見られる。

4~11 は菊文軒丸瓦である。花弁が細長く、中央の花芯が小さく扁平なタイプ(4)と、幅広の短い花弁をもち、中央の花芯が大きなドーム型で細かい浮文を施す蓮華文のようなタイプ(5~11) に分かれる。4 は細長い16 弁で、花弁の断面は三角形である。瓦当裏面にはナデの後、「八」の字を刻む。丸瓦との接合部には刻みをつける。焼成は良好である。5 は幅広の短い16 弁で、花弁の断面は台形である。菊文の外側には圏線を巡らす。焼成はあまく、摩滅が著しい。6・7 は幅広の短い花弁で、花弁の断面は半円形である。7 は丸瓦との接合部に刻みが残る。8 は幅広の短い16 弁で、花弁の断面は半円形である。菊文の外側には圏線を巡らす。9・10 は幅広の短い16 弁で、花弁の断面は半円形である。中央部の花芯に浮文を施すが、摩滅が著しい。焼成はあまい。丸瓦部凸面にはナデを施し、9 は凹面にはコビキ B が残る。11 は幅広の短い16 弁で、花弁の断面は半円形である。中央部の花芯の浮文は二重に内側に10 個、外側に18 個施す。菊文の外側には圏線を巡らす。焼成はあまく、摩滅が著しい。

12 の中心飾りは一珠三葉で、珠文の横から 2 回転の唐草文を施す。唐草の外側の葉は上端が 2 つに割れている。平瓦部凹面・凸面ともにナデを施す。13 は左側に滑り止めをもつ軒平瓦である。中心飾りは不明で、3 回転の唐草文を施す。平瓦部凹面・凸面ともにナデを施す。14 は右側に滑り止めの痕跡をもつ軒平瓦である。中心飾りは宝珠文で、宝珠の下から 3 回転の唐草文を施す。唐草は凸線で縁取りを行い、唐草の外側には細長い 3 本の葉を施す。平瓦部凹面はナデを施し、顎は貼り付けである。

15~18 は丸瓦である。15 は凸面にナデ、凹面にコビキ B と縦方向のタタキが残る。16 は凸面にナデ、凹面に布目痕が残る。17 は瓦当部が欠損した軒丸瓦である。凸面にナデ、凹面に布目痕と縦方向のタタキが残る。凹面中央部には側面と側面をつないだ仕切りがある。瓦当部との接合部には刻みを施す。18 は凸面にナデ、凹面にコビキ B と縦方向のタ



第20図 КЅТО7-1出土遺物実測図(1/4)

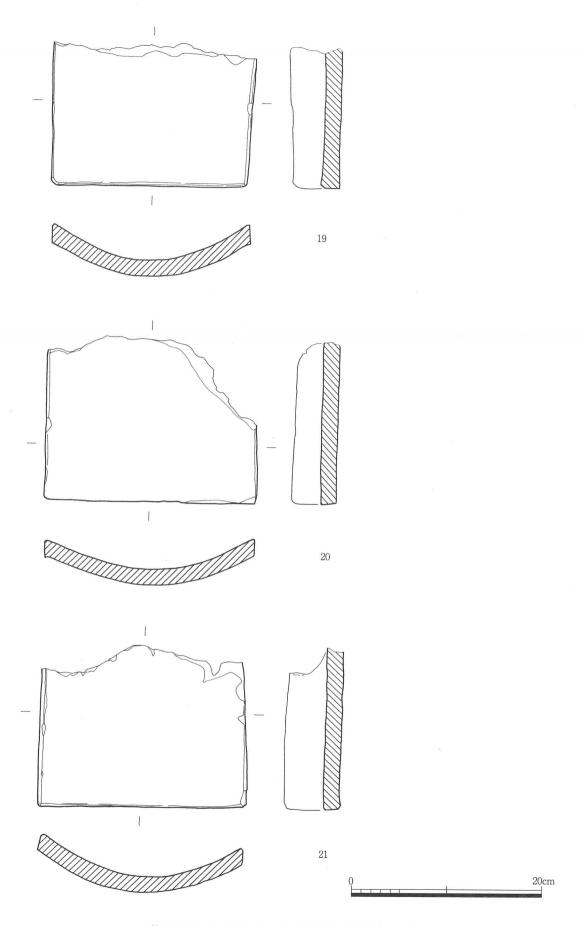
タキが残る。胴部に釘穴を2ヶ所穿つ。

19~21は平瓦であり、凹面・凸面ともにナデを施す。

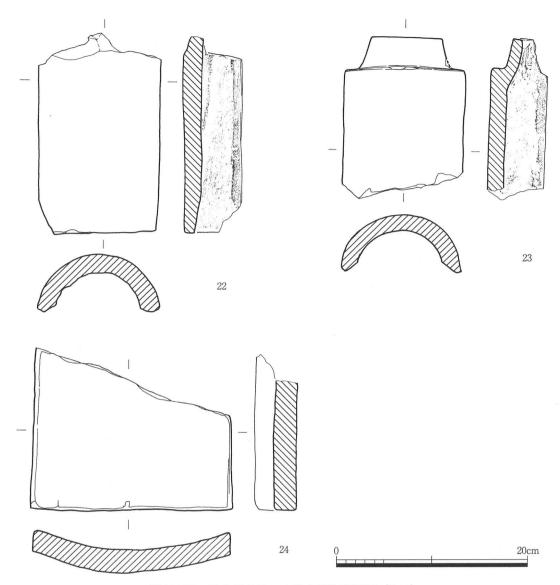
22・23 は丸瓦で、凸面にナデ、凹面に 22 はコビキ B と縦方向のタタキが残り、23 はコビキ B と布目痕が残る。24 は平瓦であり、凹面・凸面ともにナデを施す。

#### (2) 土器·鉄製品(第23·24図·図版14~16)

SD 4から瓦質羽釜(40)、SW 1・3から土師皿(30・31)、SW 4から土師皿(26)・



第21図 KSTO7-1出土遺物実測図(1/4)

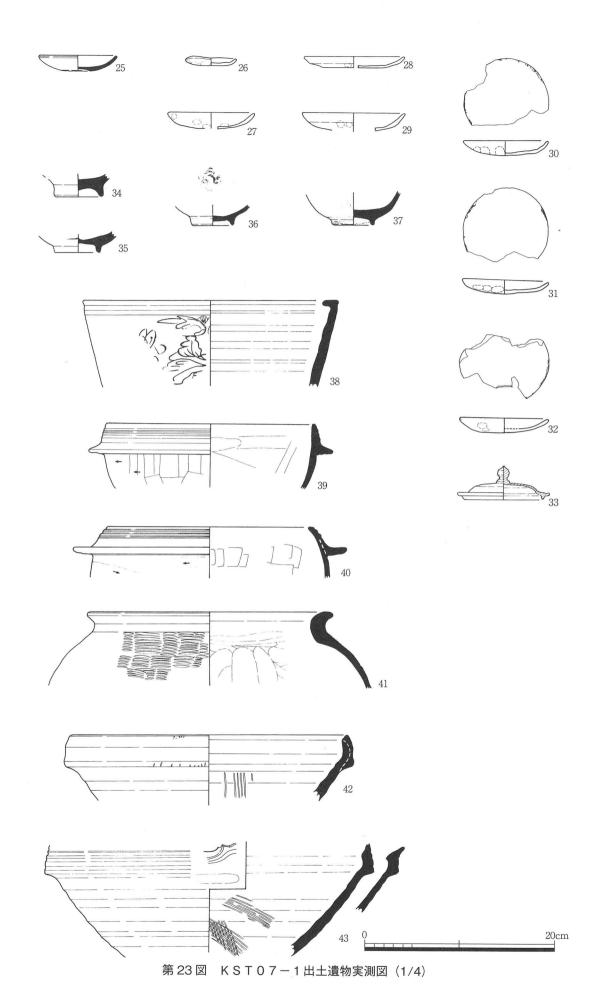


第22図 KST07-1出土遺物実測図(1/4)

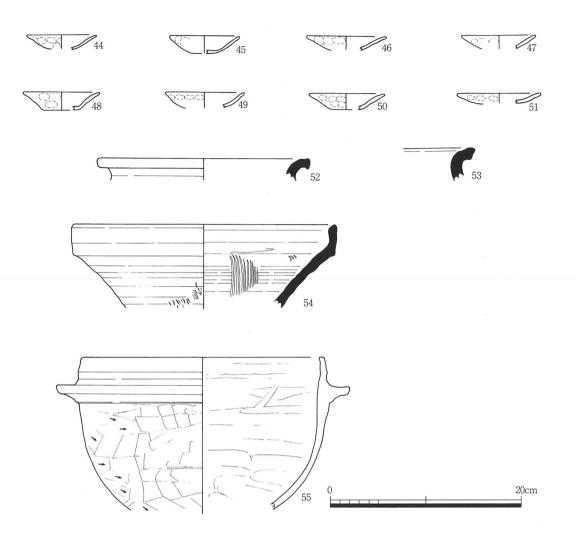
すり鉢 (42)、カクラン 1 から磁器碗  $(34\cdot37)$ ・陶器碗 (35)、磁器鉢 (38)、瓦質羽釜 (39)、包含層から陶器皿 (25)、土師皿  $(27\sim29\cdot32\cdot44\sim51)$ 、鉄製品蓋 (33)、磁器碗 (36)、瓦質甕 (41)、陶器すり鉢  $(43\cdot54)$ 、陶器甕  $(52\cdot53)$ 、土師質羽釜 (55) が出土した。

25 は乳白色を呈する胎土の陶器皿で、碁笥底の底部をもつ。26 は手づくねの小皿である。27~32 は手づくねの土師皿である。30~32 は口縁部にススが付着し、灯明皿である。33 は宝珠つまみをもつ鉄製の蓋である。34~37 は磁器碗で、35~37 は高台際と高台に圏線がめぐる。35 は畳付を露胎にする。36 は底部内面に花を描き、37 は蛇目釉剥ぎをする。38 は磁器鉢で、オリーブ灰色の釉を施し、花を陰刻する。39・40 は瓦質羽釜である。41 は瓦質甕で、短く立ち上がる頸部から口縁部は外反し、体部に細かいタタキを施す。42・43 は備前すり鉢である。44~51 は手づくねの土師皿である。52 は産地不明、53 は丹波甕である。54 は備前すり鉢、55 は土師質羽釜である。

(小林)



-33-



第24図 KSTO7-2出土遺物実測図(1/4)

## 図版



調査前状況(西から)



土層断面 (南から)



調査区全景(西から)



瓦出土状況 (南から)



S X 1~3 (東から)



調査前状況(南から)



土層断面 (南から)



調査区全景 (南から)



調査区全景 (西から)



SX4 (西から)



調査区全景(北から)



瓦出土状況 (南から)

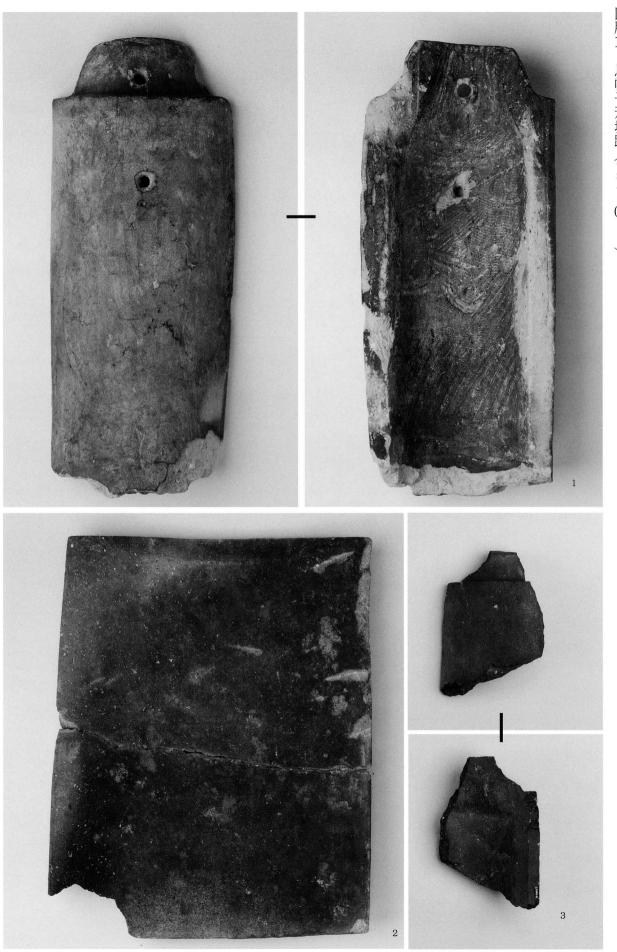


調査区全景(北から)



遺構検出状況 (東から)

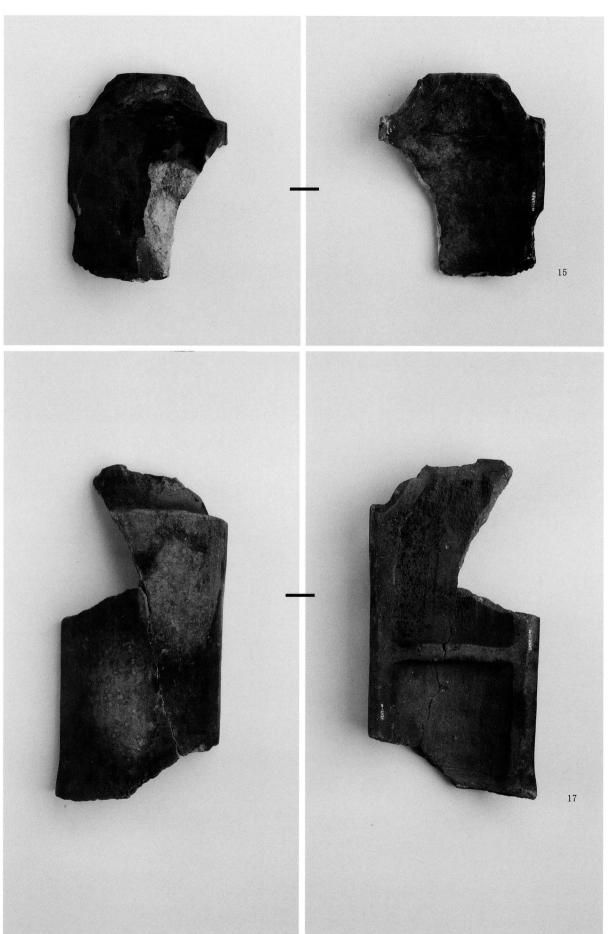
包含層 (2~5)



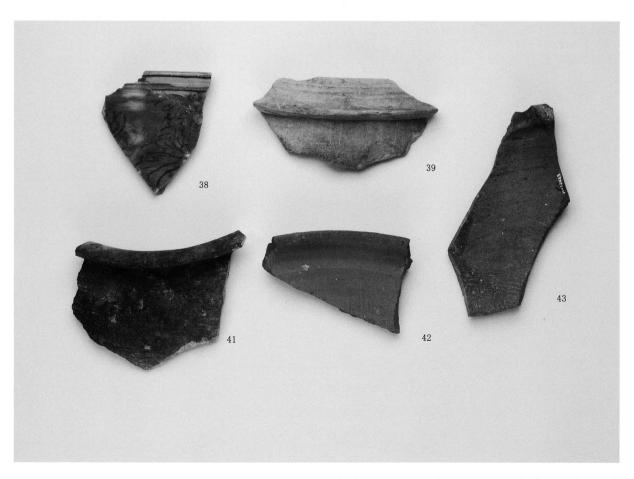
S X 4 (1)、包含層 (2·3)



カクラン1  $(2 \sim 5 \cdot 9 \cdot 10 \cdot 12 \sim 14)$ 







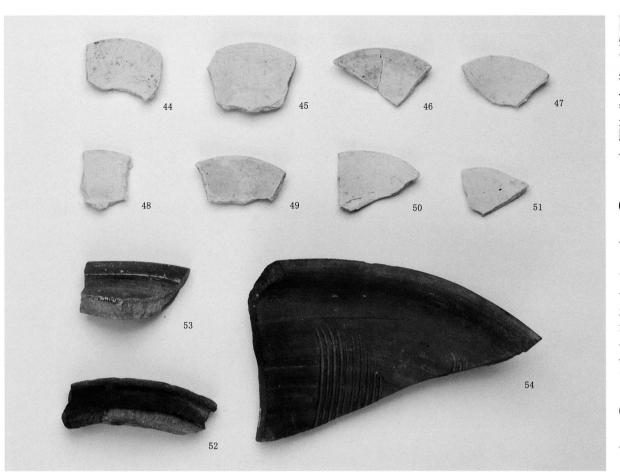
SW4(42)、カクラン1(1・6~8・38・39)、包含層(41・43)





包含層(25·33)、SW1·2(30)、SD4(40)

40



包含層(44~54)



包含層(1~5)

## 報告書抄録

かわちながのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ						
河内長野市埋蔵文化財調査報告書XXVII						
烏帽子形城跡 三日市北遺跡·三日市宿跡 観心寺遺跡						
X X VIII						
河内長野市文化財調査報告書						
第 49 輯						
太田宏明 小林和美						
河内長野市教育委員会						
〒 586-8501 大阪府河内長野市原町1丁目1番1号 Tel 0721-53-1111						
2009年3月31日						

所収遺跡	所在地	コード		小、谷	古 奴	明北州	( m²)	理木匠田
		市町村	遺 跡	北緯	北禅	東経	調査期間	調査面積
えばしがたじょうあと 烏帽子形城跡 (EBS07-2)	** 大阪 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	27216	府 24 河 20	34° 26′ 19"	135° 34′ 04"	H20.3.4 — H20.3.7	9	範囲確認
えばしがたじょうあと 烏帽子形城跡 (EBS08-1)	** * * * * * * * * * * * * * * * * * *	27216	府 24 河 20	34° 26′ 19"	135° 34′ 04"	H20.12.8 ————————————————————————————————————	18	範囲確認
### ### #############################	# * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	27216	府 171 河 141	34° 25′ 58"	135° 34′ 24"	H20. 3. 25 H20. 3. 26	40	個人住宅
がんしんじいせき 観心寺遺跡 (KST07-1·2)	*************************************	27216	府 4 河 3	34° 20′ 06"	135° 30′ 36"	H19.11.19 ~ H19.12.21	100	範囲確認

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
烏帽子形城跡	城館・生産	中世~近世	堀内障壁	瓦	
三日市北遺跡 三日市宿跡	集 落 宿駅に伴う 街並	弥 生 時 代 中世~近世	溝・土坑	陶磁器	
観心寺遺跡	社 寺	平安以降	石組・溝・ 土坑	土 器 陶磁器 瓦	

## 河内長野市文化財調査報告書第49輯 河内長野市埋蔵文化財調査報告書XXW

## 烏帽子形山城跡 三日市北遺跡・三日市宿跡 観心寺遺跡

2009年3月31日発行

発行 大阪府河内長野市原町一丁目1番1号 河内長野市教育委員会

0721 - 53 - 1111

印刷 (株) 近畿印刷センター